

2025/2026 冬期の札幌圏の大雪と岩見沢の少雪 —2012, 2022, 2026 年冬期の比較を通して—

Heavy Snow in the Sapporo Area and Light Snow in Iwamizawa in Winter 2025/2026 — Comparing the Winters of 2012, 2022, and 2026 —

松岡 直基¹, 丹治 和博², 金田 安弘³, 白川 龍生⁴, 尾関 俊浩⁵
Naoki Matsuoka¹, Kazuhiro Tanji², Yasuhiro Kaneda³, Tatsuo Shirakawa⁴, Toshihiro Ozeki⁵
Corresponding author: naoki.matsuoka@howtecc.jp (N. Matsuoka)

¹北海道気象技術センター, ²日本気象協会, ³北海道開発技術センター, ⁴北見工業大学, ⁵北海道教育大学

¹ Hokkaido Weather Technology Center, ² Japan Weather Association, ³ Hokkaido Development Engineering Center, ⁴ Kitami Institute of Technology,

⁵ Hokkaido University of Education

During the winter of 2026, Sapporo was hit by three heavy snowfalls, which had a big impact on daily life. On the other hand, Iwamizawa had a record low amount of snow, making for a very contrasting winter. It was confirmed that the main weather factors were the amount of cold air bringing seasonal winds and the wind direction along the west coast of Hokkaido. Even with global warming, there's concern that heavy snowfalls could still happen in the Sapporo area.

1. はじめに

2026 年冬の札幌は、4 年ぶりの大雪に見舞われ、社会生活に大きな影響を与えた。一方、平年は積雪の多い岩見沢では記録的な少雪となった。札幌圏で降雪の多かった 2022 年と 2026 年冬、岩見沢で記録的な大雪となった 2012 年冬を比較し、これらの気象的要因について分析を行った。

2. 降雪・積雪の状況

2. 1 札幌の降雪・積雪状況

2026 年冬期 (2025 年 12 月～2026 年 3 月) の札幌の毎日の降雪・積雪状況を図 1 に示す。1 月 25 日から 2 月 23 日までは平年値を超え、3 回のまとまった大雪 (ドカ雪) に見舞われた。近年の大雪だった 2012 年冬に比べると、平年値を大幅に超える日は少なかった。

2. 2 岩見沢の降雪・積雪状況

岩見沢における 2026 年冬期と、自衛隊が災害派遣された 2012 年の積雪状況を図 2 に示す。2012 年の積雪深は平年の約 2 倍であったのに対し、2026 年はその約半分で推移した。また、2025 年 12 月から 2026 年 2 月までの降雪量の合計は 402cm で、過去 74 年間で 4 番目に少ない記録となった。一方、2012 年は 800cm であり、2026 年の約 2 倍の降雪量であった。さらに 2026 年は融雪も早く、3 月 6 日に積雪がゼロとなったのは観測史上初である。

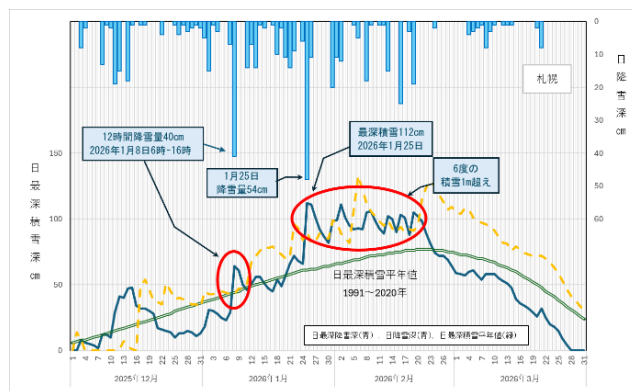


図 1 2026 年と 2022 年冬期の札幌の降雪・積雪
緑線：日最深積雪平年値、青線：2026 年日最深積雪、橙破線：2022 年日最深積雪

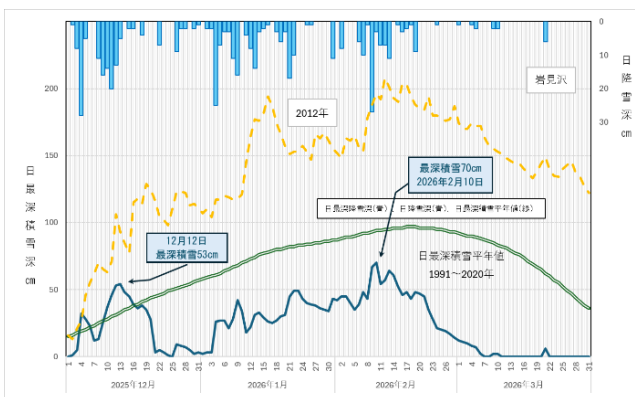


図 2 2026 年と 2012 年冬の岩見沢の降雪・積雪
緑線：日最深積雪平年値、青線：2026 年日最深積雪、橙破線：2012 年日最深積雪

3. 2026 年冬の大雪時の気象状況

3. 1 2026 年 1 月 8 日の札幌の降雪

低気圧が宗谷海峡を通過した後、北海道付近の等圧線が縦縞となる冬型の気圧配置（図 3）となり、札幌では 1 月 8 日早朝から夕方にかけて大雪となった（図 4）。12 時間降雪量 40cm は、1 月としての記録を更新した。日中の降雪のために道路の除雪作業が進まず、札幌圏では交通渋滞が発生した。

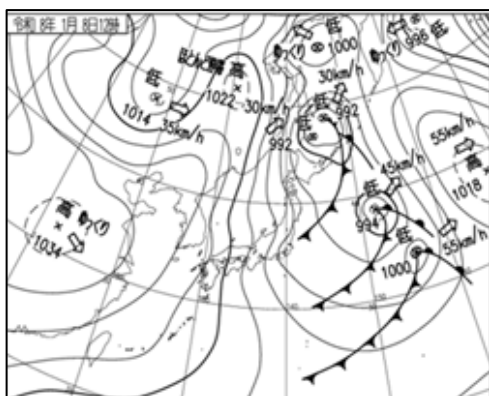


図 3 地上天気図 2026 年 1 月 8 日 12 時

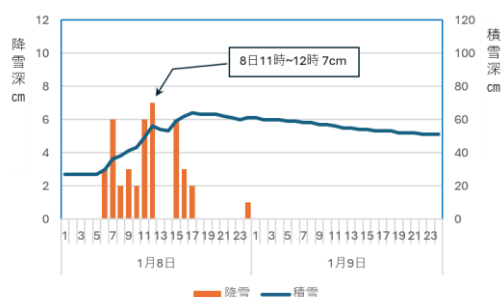


図 4 札幌の毎時降雪深と積雪深
2026 年 1 月 8 日～9 日

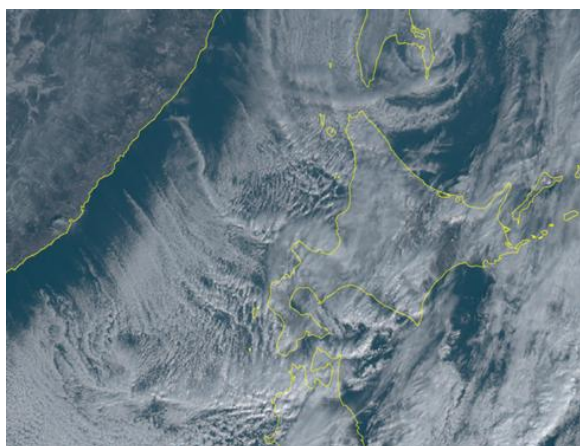


図 5 気象衛星可視画像 2026 年 1 月 8 日 09 時
JAXA ひまわりモニタから転載

図 5 の気象衛星画像から、沿海州の地形効果によって発達した帯状の雲（通称「村松バンド」）が、積丹半島の北縁に沿って札幌周辺へ侵入したことが分かる。

3. 2 2026 年 1 月 24 日～25 日の札幌の降雪

北海道西岸を小さな低気圧がゆっくりと南下し、1 月 24 日深夜から翌 25 日夕方にかけて、毎時 2～6cm の降雪が継続した。総降雪量は 54cm で、積雪深は 60cm から 18 時間後には 112cm まで一気に増加した（図 7）。

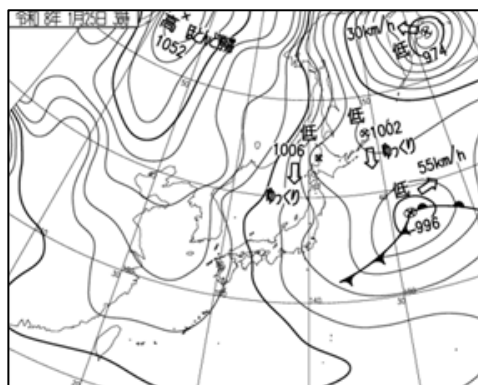


図 6 地上天気図 2026 年 1 月 25 日 3 時

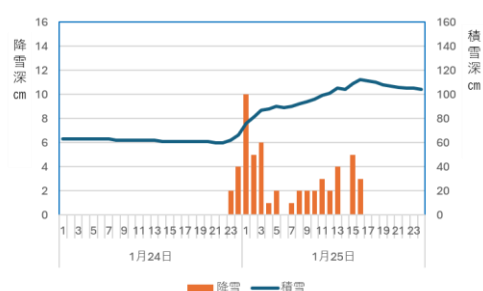


図 7 札幌の毎時降雪深と積雪深
2026 年 1 月 24 日～25 日

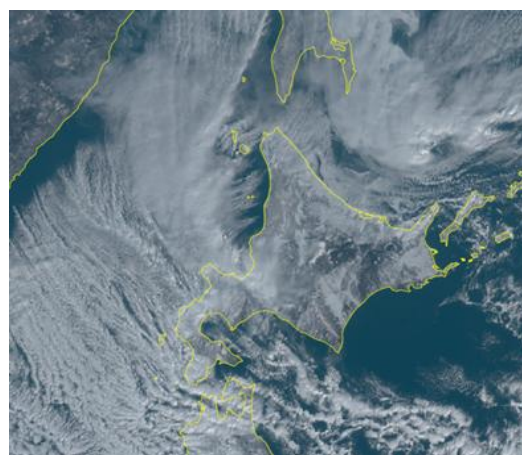


図 8 気象衛星可視画像 2026 年 1 月 25 日 10 時
JAXA ひまわりモニタから転載

気象衛星画像(図8)では、北海道西岸の小低気圧の西側を雪雲が回り込むようにして札幌圏へ侵入している様子が確認できる。

図9から降雪域が札幌圏から千歳市周辺にまで延びていることが分かる。この大雪により、札幌圏を発着するほぼすべての交通網が停止した。新千歳空港では24日夜に約7,000人、翌25日にも約2,000人の滞留者が発生した¹⁾。また、札幌駅に直結する地下歩行空間(チカホ)では、約350人が一夜を明かした²⁾。

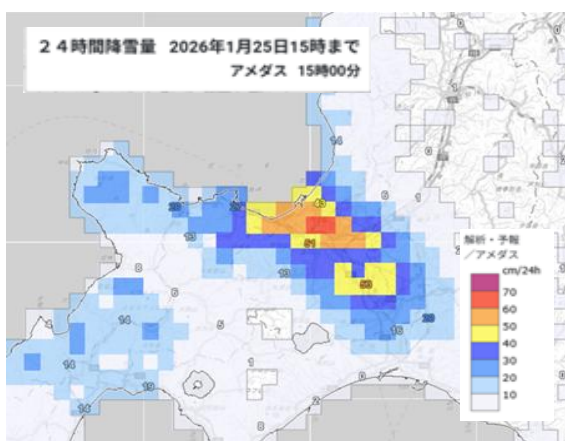


図9 24時間降雪量分布図 24日～25日15時
気象庁HP「今後の雪」を編集加工

3. 3 2026年2月19日の札幌の降雪と風

低気圧が発達しながら北海道南岸を通過し、冬型の気圧配置となった19日未明から、札幌圏は猛吹雪となり、交通機関が停止するなど、通勤・通学に大きな影響が生じた。札幌市、江別市、北広島市、石狩市、小樽市などでは、小中学校および高校計345校が臨時休校となった³⁾。図11の札幌における10分間最大瞬間風速および降水量のデータから、未明から夕方にかけて吹雪状態が継続していたことが推察される。

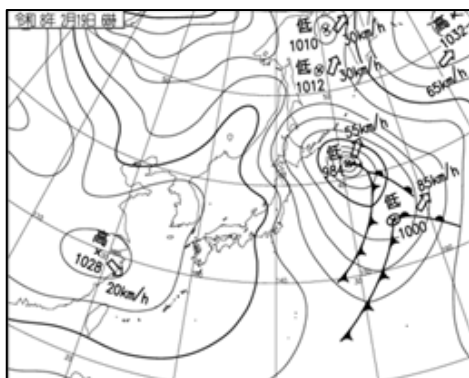


図10 地上天気図 2026年2月19日03時

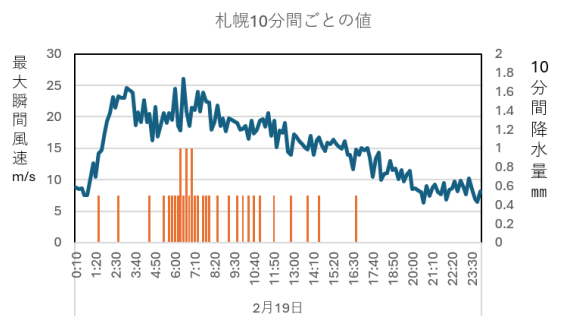


図11 札幌の最大瞬間風速と降水量
2026年2月19日10分値

札幌での高層観測データから2,000m以下の下層で20m/s以上の強風が吹いていた(図12)。先の二例の大雪時には2,000m以下の下層風速はおおむね10m/s程度であり、本事例はその点で特徴的である。北および北西からの筋状雲が石狩湾付近で収束し、下層ジェットとして強化されたと考えられる。

図13は地上風と降水域を数値計算した結果である。2本の降水域が合流し札幌圏に侵入する様子を再現している。

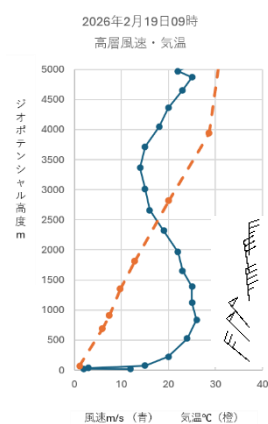


図12 風速と気温
2026年2月19日9時
青：風速，赤：気温
札幌高層観測値

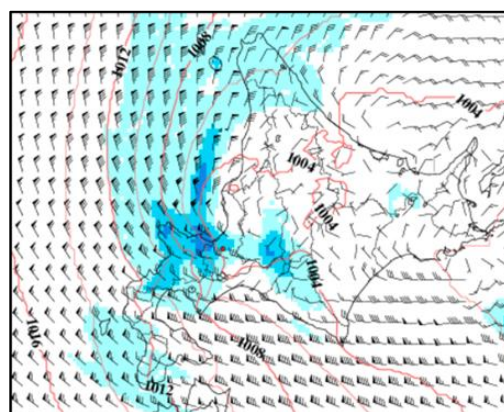


図13 数値計算による地上風速と降水量
2026年2月19日03時初期値の05時予測
日本気象協会 Synfos から抜粋

4. 札幌と岩見沢の大雪、少雪の要因

札幌圏は2022年および2026年に大雪となっ

一方で、岩見沢の 2026 年冬は記録的な少雪となった。また、岩見沢が孤立するほどの大雪となった 2012 年冬を含めた三冬期について、寒気移流と風向の観点から整理した。

岩見沢における冬期(12月～2月)の降雪量は、札幌の 850 hPa 気温との間に良好な相関関係があることが知られている⁴⁾。2026 年冬も同様にこの関係が成立しているが、札幌ではこの関係は明瞭ではない(図 14)。札幌では周辺地形や石狩湾の影響により、寒気量よりも風向の影響が支配的であることが、既往研究や経験則から示されている。

三冬期における北海道西岸域の風向出現率を見ると、札幌で大雪となった 2022 年および 2026 年冬は北北西が卓越し、岩見沢で大雪となった 2012 年冬は北西が卓越していた(図 15)。これらの結果は、これまでの研究結果を支持するものである。

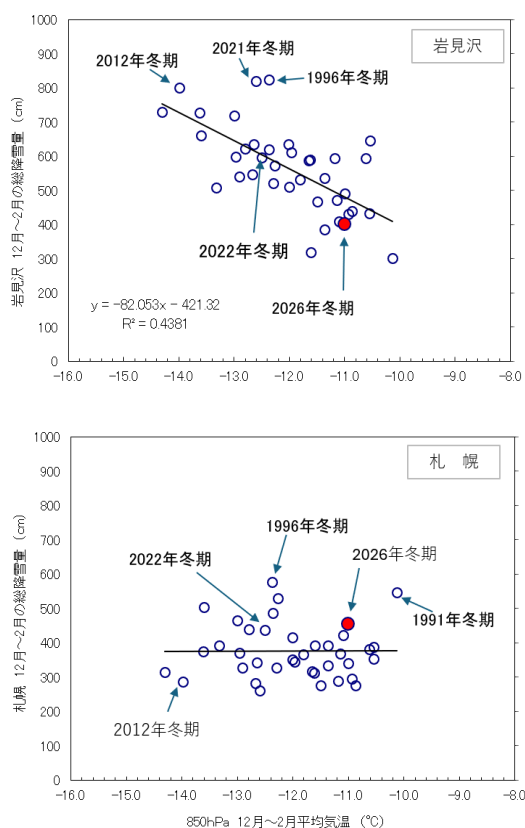


図 14 札幌 850hPa 冬期平均気温と総降雪量
上：岩見沢，下：札幌 冬期は 12 月～2 月
1989 年冬期～2026 年冬期の 38 年間

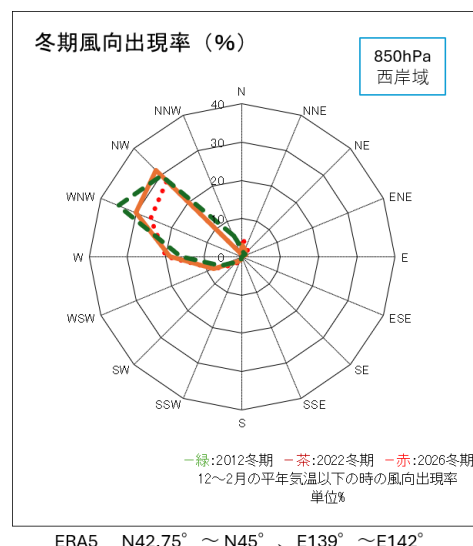


図 15 北海道西岸域 850hPa 風向出現率
2012 年，2022 年，2026 年の 12 月～2 月

5. まとめ

2026 年冬期の札幌は、3 回のドカ雪により社会生活に大きな影響を及ぼした。降雪時の気圧配置は、冬型、西岸小低気圧、低気圧通過時の猛吹雪と多様であったが、いずれも北海道西岸域に特徴的な大雪パターンであった。

札幌と岩見沢における大雪、ならびに岩見沢の少雪は、850 hPa 付近の寒気量および風向によって概ね説明できることが確認された。これは、温暖化により寒気量が減少したとしても、札幌圏のドカ雪は風向条件によって発生し得ることを示しており、大雪への備えの重要性は今後も低下しないことを示唆する。

【参考文献】

- 1) 北海道新聞(2026) : [https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1267505/\(2026.3.1 閲覧\)](https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1267505/(2026.3.1%20閲覧))
- 2) 北海道新聞(2026) : [https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1267516/\(2026.3.1 閲覧\)](https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1267516/(2026.3.1%20閲覧))
- 3) 北海道新聞(2026) : [https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1277263/\(2026.5.2 閲覧\)](https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1277263/(2026.5.2%20閲覧))
- 4) 松岡直基他 (2022) : 2021-2022 年冬期の札幌都市圏における大雪について(その 3)ー 大雪をもたらした気象の特徴 ー。北海道の雪氷，41, 13-16.